

浜岡原子力発電所 廃棄物減容処理装置建屋(第2建屋)
焼却炉放射線モニタ指示値の自然放射線変動範囲の超過について(続報)

2014年7月30日

■今回お知らせする内容

調査結果	<p>以下の要因分析に基づく原因調査の結果から、焼却炉放射線モニタ指示値が一時的に上昇し、自然放射線による変動範囲(以下、「自然変動範囲」という。)をわずかに超過した原因は、実際に放射性物質が放出されたものでないこと、作業などにより測定設備にノイズなどの外部からの影響が加わったものでないことを確認しました。また、検出器などの測定設備の点検をおこなった結果、異状は確認されなかったものの、一過性の不調の有無については確認できませんでした。</p> <p style="text-align: center;">要因分析に基づく原因調査の結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">事象</th> <th style="width: 20%;">要因</th> <th style="width: 40%;">調査結果</th> <th style="width: 20%;">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">焼却炉放射線モニタ指示値の自然変動範囲の超過</td> <td style="text-align: center;">排ガス中に放射性物質が混入</td> <td>別の測定器による放射能測定の結果、放射性物質は検出されなかった</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">作業などによる測定設備への外部からの影響</td> <td>測定設備へ影響を与える作業などはおこなわれていなかった</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">測定設備の異状</td> <td>点検の結果、異状は確認されなかったが、一過性の不調により指示値が上昇した可能性は否定できない</td> <td style="text-align: center;">△</td> </tr> </tbody> </table>	事象	要因	調査結果	評価	焼却炉放射線モニタ指示値の自然変動範囲の超過	排ガス中に放射性物質が混入	別の測定器による放射能測定の結果、放射性物質は検出されなかった	×	作業などによる測定設備への外部からの影響	測定設備へ影響を与える作業などはおこなわれていなかった	×	測定設備の異状	点検の結果、異状は確認されなかったが、一過性の不調により指示値が上昇した可能性は否定できない	△
事象	要因	調査結果	評価												
焼却炉放射線モニタ指示値の自然変動範囲の超過	排ガス中に放射性物質が混入	別の測定器による放射能測定の結果、放射性物質は検出されなかった	×												
	作業などによる測定設備への外部からの影響	測定設備へ影響を与える作業などはおこなわれていなかった	×												
	測定設備の異状	点検の結果、異状は確認されなかったが、一過性の不調により指示値が上昇した可能性は否定できない	△												
今後の対応	<p>調査結果から、本事象は測定設備の一過性の不調が原因で発生する可能性を否定できないことから、部品の取替をおこなったうえで、焼却炉の運転を再開します。</p>														

発生号機	廃棄物減容処理装置建屋(第2建屋) 焼却炉									
発生年月日	2014年7月18日									
発生時の状況	<p>2014年7月18日 14時00分頃、当社ホームページ「リアルタイムデータ」で公開している第2焼却炉放射線モニタ^{※1}のダスト^{※2}およびヨウ素の指示値が、自然放射線による変動範囲の上限をわずかに超過しました。その後の調査の結果、放射性物質の放出および環境への影響はありませんでした。</p> <table border="1" data-bbox="539 645 1283 797"> <thead> <tr> <th>測定項目</th> <th>自然放射線による変動範囲</th> <th>14時00分時点の指示値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダスト</td> <td>6.5～7.5cps</td> <td>7.8cps^{※3}</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素</td> <td>6.9～7.9cps</td> <td>8.0cps</td> </tr> </tbody> </table> <p>事象発生時、可燃性固体廃棄物の焼却のために当該焼却炉の運転をおこなっていましたが、その後、すみやかに運転停止操作をおこないました。原因調査のために、当該放射線モニタに設置されているフィルタを取り外し、詳細に放射能測定をおこなったところ、放射性物質は検出されませんでした。今後、計器の故障等も含めて調査をおこなってまいります。なお、現在、当該放射線モニタの指示値は、いずれも自然放射線による変動範囲内となっています。</p>	測定項目	自然放射線による変動範囲	14時00分時点の指示値	ダスト	6.5～7.5cps	7.8cps ^{※3}	ヨウ素	6.9～7.9cps	8.0cps
測定項目	自然放射線による変動範囲	14時00分時点の指示値								
ダスト	6.5～7.5cps	7.8cps ^{※3}								
ヨウ素	6.9～7.9cps	8.0cps								
お知らせ基準	<p>本情報は、運転情報「表 1-5 気体状又は液体状の放射性廃棄物の計画外の排出があったとき(排出量が原子炉等規制法に基づく報告基準に至らない場合)、あるいは排気筒モニタ、放水口モニタまたはモニタリングポストの警報が点灯したとき、または排気筒等のガスサンプリングで放射性物質を検出したとき」に該当します。</p>									

※1 焼却炉放射線モニタとは、廃棄物減容処理装置建屋焼却炉排気筒から放出する排気中の放射性物質の濃度を連続して測定する装置です。

※2 粒子状の放射性物質のことです。

※3 放射性物質の濃度は、カウント毎秒(cps:count per secondの略)という単位で表示しています。これは、1秒間に測定された放射線の数を示しています。

以上